都市文化研究セミナー
再考「大坂・アジア・都市」

大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センターでは、前近代・近代の大阪（大坂）、東アジア海域世界、都市などを重要なキーワードにして研究を進めてまいりました。こうした研究・教育活動の延長線上で、2011～2013 年度、日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に採択され、研究・教育活動を行っています。 http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/zuno/

今回、このプログラムの一環として**都市文化研究セミナー；再考「大坂・アジア・都市」**を開催することになりました。「大坂」「アジア」「都市」は、都市文化研究センター、ならびに頭脳循環プログラムにおいて主要な研究テーマになっております。

それぞれのテーマについて学外の研究者を講師としてお招きし、最新の研究成果、あるいは独自の視点からの学問的な提起を披露していただくことで、プログラムの今後の遂行のための重要な契機といたしたいと考えています。さらに、本セミナーを「頭脳循環」プログラムの枠内にとどめるのではなく、より多くの研究者の皆さんに公開することで、研究のいっそうの進展を期待しております。

セミナー当日は、それぞれの講師からのご報告ののち、十分に時間をとって参加者と意見交換し、テーマを深めてゆきたいと考えています。コーディネーター：仁木　宏（大阪市立大学大学院文学研究科、「頭脳循環」プログラム研究代表）

若手研究者に多く参加いただく催しにしたいと考えておりますが、どなたも**参加自由（事前申込不要）**ですので、多数のご来場をお待ち申し上げております。

第１回　「前近代の大坂」　　大阪歴史博物館　2F 第１会議室

2013 年２月 16 日（土）13:30～17:00

古代の難波宮、中世の四天王寺・渡辺津などの実態が現在、どこまで明らかになっているのか。それらの存在が、それぞれの時代の国家、社会構造のなかでどのような意義をもっていたのか。こうした視点から、近世以前の「大坂」の場のもつ意味を明らかにする。

古市　晃氏（神戸大学）「難波宮と古代国家」

大澤研一氏（大阪歴史博物館）「宗教都市の時代　中世大阪」

第２回　アジア海域世界と中世日本　大阪歴史博物館 4F 第２研修室

2013 年３月９日（土）13:30～17:00

日本中世社会に中国や朝鮮の影響が強くおよんでいたことはもはや常識のように語られる。一方で、中世史研究の中で、これをとりあつかうのは「外交史」という範疇でしかない。アジア海域世界の影響が具体的にどのように中世日本に影響を与えたのか、さまざまな角度から検討をくわえたい。

榎本　渉氏（国際日本文化研究センター）

「中世東シナ海航路を守る神

－海域で生成・伝播する航海信仰－」

中島楽章氏（九州大学）

「16 世紀、東アジア海域の変動と日本列島

―豊臣政権と福建ネットワーク－」

第３回　都市論の可能性　　4～5 月に開催予定

■事務局
大阪市立大学大学院文学研究科
頭脳循環を加速する若手研究者
戦略的海外派遣プログラム
「東アジア都市の歴史的形成と
文化創造力」

問い合わせ先
niki@lit.osaka-cu.ac.jp